



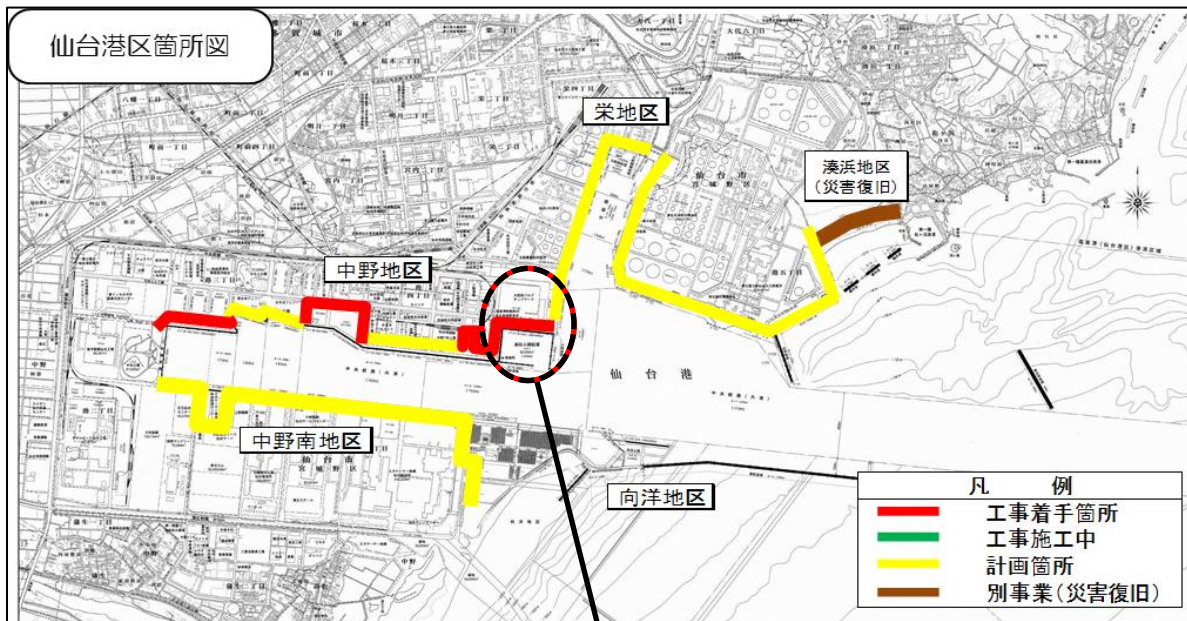
# 仙台塩釜港復興だより 第16号

## — 港湾は人の心も結んでいます —

仙台港区の防潮堤工事が進んでいます！

仙台塩釜港復興だより第14号でお知らせした『仙台港区防潮堤工事』は施工が着々と進み、一部防潮堤のカタチがわかるようになってきました。

今後も順次施工着手となり、整備目標である平成29年度までに全ての防潮堤を整備できるよう取り組んで参ります。



● 施工着手前



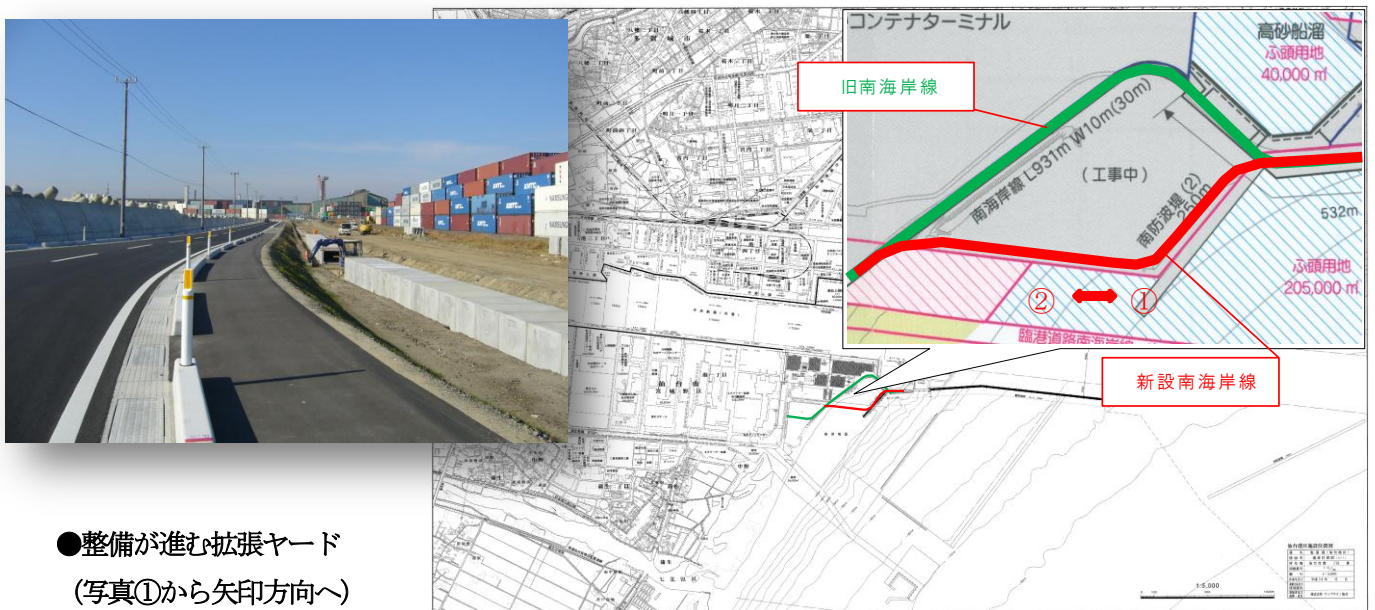
● 施工着手中 (平成26年12月末現在)

仙台港区高砂地区の整備が着々と進んでいます！

高砂ふ頭コンテナターミナルは、コンテナ取扱量の増加に伴い現在のコンテナヤードでは手狭になりつつあるため、ヤード背後のスペースを埋立て約6haの拡張工事を行っています。

また、今年1月から工事を着手した臨港道路南海岸線は10月1日より供用を開始しました。この工事では、既設の南海岸線約700mを拡張された用地へ移設し、海側を通る配置となりました。道路の移設により、拡張用地の一部について空コンテナ置き場として暫定供用が可能となり、港湾荷役の更なる充実が期待されます。

さらに、現在は拡張用地の排水構造物工事、南防波堤復旧工事等を順次進めております。今後は、舗装工事や施設の再配置を計画しており、将来を見据えた使い勝手の良いコンテナターミナルに拡張いたします。なお、旧道部分と拡張用地内は工事車両や荷役重機が往来し大変危険ですから、工事・荷役関係者以外は立ち入ることの無いようご協力をお願い致します。



●整備が進む拡張ヤード  
(写真①から矢印方向へ)



●施工着手前



●施工完了後

(写真②から矢印方向へ)

## スリーエム仙台港パークの利用状況について

仙台塩釜港復興だより第14・15号で供用再開をお知らせしました「スリーエム仙台港パーク」について、今月号では公園の利用状況をお伝えします。

現在、身近に海を感じられる公園として小さなお子様連れでのピクニックやスポーツを満喫すること及び海を見るためのドライブなど幅広い年齢層の方々に愛されている施設となっております。

平日は、小学校の課外学習の場として、また企業様等の仙台塩釜港視察など団体での仙台塩釜港見学に利用いただいております。

休日は有料公園施設である野球施設・テニスコートは終日利用客の方々に一杯となっております。

利用にあたっては、公園の指定管理者である(株)東北ダイケンが事前予約を受け付けております。

詳しいご利用方法等について、ホームページ(<http://tohoku-daiken.p2.weblife.me/chuuou/>)も開設しておりますので、ご覧下さい。

今後とも、皆様に愛される港の公園「スリーエム仙台港パーク」をよろしく願います。



●課外学習の様子

### 七郷小学校の3年生、西山小学校の5年生に 港について出前講座をおこないました！

平成26年10月1日に仙台市立七郷小学校3年生161名、10月8日に同西山小学校5年生53名が仙台塩釜港について学習しました。

当日は職員が各学校に訪問し、仙台塩釜港の施設や船及び荷役機械など港の役割や概要を説明しました。

短い時間でしたが、普段の授業では中々聞けない話に熱心に耳を傾けてくれる様子が見られ職員としてもうれしく、楽しい時間を過ごせました。



●熱心に説明を聞く西山小学校の5年生

### 新造船「HEUNG-A JANICE」が入港しました！

平成26年11月14日に新たに中国／韓国航路を就航する新造船「HEUNG-A JANICE(ヒュンガ ジャニス)」が入港しました。

中国／韓国定期コンテナ航路は、外貿コンテナ定期航路で、輸出入ともにトップ3(平成25年実績)に入る貿易相手国である中国、韓国へダイレクトにつながる重要な航路であり、最新の船体が投入されることは、サービスの信頼性を更に向上させるものと大いに期待されます。



●11月14日に入港したヒュンガ ジャニス 歓迎セレモニーの様子

---

## 仙台塩釜港で働く応援職員のみなさん

---

仙台塩釜港で働く応援職員の方々の紹介は本号で第三回となります。今回は、東京都から応援に来ていただいている「田村 正実さん」です。

### 「田村 正実さん」(東京都応援職員)

10月から12月末までの3ヶ月間、東京都から宮城県仙台塩釜港湾事務所に派遣職員として参りました田村と申します。これまでの27年間、東北の地に足を踏み入れたことがなく、今回生まれて初めて訪れましたが、思いのほか肌寒く順応するのに時間がかかりそうです。

東京都では、港湾局に在籍しており、これまでに伊豆諸島の新島における港湾施設の設計・現場監督業務や、東京港における埠頭施設、新海面処分場埋立地の予算執行管理業務を担当しておりました。宮城県に派遣されてからは、物揚場や防波堤、防潮堤の設計、現場監督といった、引続き港湾関係の業務を担当しておりますが、災害復旧関連の業務に携わるのは初めての経験なので、日々勉強の毎日です。

宮城県の仕事に携わって数ヶ月が経ちましたが、東京で行う業務と違い、災害復旧業務の難しさを感じております。まず例として挙げるのが、海岸保全施設の復旧に当たり、防潮堤の形状や高さの選定、背後地の利用等、住民や事業者との調整が非常に困難なことです。東京でも、防潮堤の建設における利用者との調整はありましたが、これだけ広範囲かつ大規模な改修事業に携わるのは初めての経験です。また、人手不足や建設資材の需要超過により、工事入札の不調、工事進捗の遅延が続き、事業が思うように進まない点についても苦労する状況です。

しかし、このような困難な状況にも関わらず、私が宮城県を訪れてまず感じたことは、道路や岸壁の復旧が私の想像していた以上に進んでいるということです。これはひとえに、県職員や建設事業関係者の方々による不断の努力の成果であり、心から敬服しております。今後も事業を進捗するに当たり、様々な困難があるかと思いますが、一日でも早い東北の復旧を願っております。

また、この3ヶ月の期間に災害復旧業務をとおして得た経験を、今後の東京都の業務に還元していくことも、非常に重要なことであると思います。現在、東京都でも、地震や津波・高潮等による災害から都民の生命、財産を守るための整備を進めております。この3ヶ月間の経験は、このような東京都の防災事業に携わることになった時に、必ず活かせるはずです。

3ヶ月という短い期間の派遣ではありますが、少しでも東北復興の力となれるよう全力で業務に取り組みとともに、私個人としても宮城県の業務をとおして成長していきたいと思っております。



●高砂船溜り物揚場の災害復旧工事

---

### 編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所 編集委員

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3 アクセル5階

TEL 022-254-3132

FAX 022-254-3136

E-mail [sdsgkowns@pref.miyagi.jp](mailto:sdsgkowns@pref.miyagi.jp)